

18.05.04 埼玉県自治体問題研究所

<https://blog.goo.ne.jp/saitamajitiken>

## キューバ訪問記

文責：埼玉県自治体問題研究所 木村芳裕

「天国でもないけど地獄でもない」明るくたくましく社会主義をめざす国・キューバ 1 (K)

2018-04-26 | 企画・行事

2018年3月26日から4月3日まで9日間のキューバ視察に行ってきました。



ハバナ市の旧市街

2014年5月、埼玉自治体問題研究所では北欧の福祉・環境視察を行いました。そこでは、高福祉のために高負担がある、その高負担を賄うために高所得を追及していることがわかりました。

キューバは医療の充実で有名ですが、GDPは、7,815ドル・年/人（86位）です。こんなに小さいのに教育も医療も無料は可能なのか、社会主義をめざしているからなのかという疑問がでてきました。また、アメリカとの経済交流によってこうした社会主義を崩してしまうのではないか、という漠然とした疑問もわいてきました。それでは行って現実を見るしかない。

### ■キューバ・ラテンアメリカ研究家、新藤通弘氏との出会い

今回企画・案内をしていただいた新藤通弘先生との出会いは、富士国際旅行社の学習会でした。新藤氏は、キューバは革命で産業を国営化したものの予測した生産量に達せず、民営化が進んでいる、そして生産力が実際に上がっている、と話していました。また、議会議員の選挙もあり共産党員以外でも立候補して議員になっているなど日本ではあまり知られていない現実を客観的なデータを基に話しました。ますます、興味がわいてきて、視察するなら新藤氏の同行は欠かせないと思いました。そして、今回のキューバ視察は新藤通弘氏同行

の視察となりました。氏の熱意が講義の数にも表れ、ハードな日程で苦闘でもありました。貴重な視察でしたので、中身などは報告集としてまとめる予定です。

■キューバ・カリブ海諸国・ラテンアメリカとアメリカ～経済主権かアメリカの勢力圏か  
最初に、キューバの置かれている状況を非常に大雑把に紹介しておきます。

ラテンアメリカ、カリブ海諸国は 1492 年のコロンブス上陸以来、スペインに征服されて、先住民は追いやられ、強制労働で酷使され、キューバでは先住民は絶滅しています。その労働力を補うために多くのアフリカ人がキューバに連れてこられました。キューバ人はスペインとアフリカの人たちです。

ラテンアメリカではスペインの征服に対して先住民の独立運動があり、1800 年代初め、シモン・ボリバルによってスペインからの解放と統一が成し遂げられました。しかし、内紛によって分裂していきます。

アメリカは 1823 年のモンロドクトリン（当時のモンロー大統領の基本原則）以降、アメリカの西半球はアメリカの勢力圏とみなすようになり、米州機構を作って勢力を拡大しました。アメリカはアメリカ資本によって収益をアメリカ国内に持っていき、ラテンアメリカの国々では貧困が増えるという時代になります。キューバは 1959 年親米の政権を革命で倒し、国民が暮らせる国をめざしています。ラテンアメリカの国々も、自国の国内資源の利益は自国民のためにという社会変革が起こり、選挙で政権を確立するところも出てきました。

これに対しアメリカは自国の勢力圏を確保するために、金融や経済界、軍事協力、マスコミ、資金援助を使って左派政権に圧力を強め、転覆させようという反動攻勢を行っています。ブラジル、ベネズエラで起こっていることの背景です。

次号から次のタイトルの順で掲載していきます。なお、このシリーズはあくまで感想ですが、6 月ごろ末ごろまでには記録に基づいた報告集をまとめる予定です。その後、このブログに掲載する予定です。記事に関するお問い合わせは研究所までお寄せください。

- 全国統一の指導要領、教科書の中学校～歌と踊りで大歓迎
- 映画は国民の楽しみ～国営スーパーは品数が少ない
- 4 段階の医療機関～1000 人に 1 か所の家庭医
- 7.26 総合診療所～キューバ革命を始めた 7 月 26 日を名前に
- 国営高齢者ホーム～朝食から夕方の軽食まで。大半が 80～90 才
- ラテンアメリカ医学校～国が貧しいのに、外国学生のために学費も寄宿費無料
- 広大な革命広場
- カバーニャ要塞とモロ要塞～内部に革命の展示
- トロピカーナ～革命政府の柔軟な解決策でキャバレーがナイトシアターに
- コヒーマル～ヘミングウェイが愛したキューバの家
- 油田開発よりも環境優先
- バラデロ キューバの主要な産業、観光産業のリゾートを体験して
- 富豪デュポンの別荘～革命による富裕層の豪邸の接収の実態
- 「誤りを隠してはいけない、誤りを認めて初めて改革ができる」～キューバの改革

■キューバは天国ではない。そうかといって地獄でもない

## 「天国でもないけど地獄でもない」明るくたくましく社会主義をめざす国・キューバ 2 (K)

2018-04-26 | 企画・行事

■全国統一の指導要領、教科書の中学校～歌と踊りで大歓迎



中学校では歌で歓迎されました

2 日目は中学校訪問。学校では私たちのために歓迎などの準備をしてくれていて、入って早々、10人ほどの中学生による歌の歓迎を受けました。中学校の授業時間は1日8時間制で1時間は45分。指導要領、教科書などは全国統一という。1学級最高35人、平均30人で20人学級をめざしています。不登校させないために、心理学者など専門家の協力も得ています。校長先生や生徒代表などをつくる管理委員会があつて、ズボンの丈の長さとかの指導をしているという。懇談後は生徒たちの研究発表を中庭で見せてくれました。麻薬の害、環境の問題など模型までつくっていました。帰りはダンスも一緒に踊ってお別れをしました。大歓迎してくれた先生や生徒に感謝しつつ、全国統一的な教育に驚いた視察でした。

■映画は国民の楽しみ～国営スーパーは品数が少ない



国営スーパーのショーウィンドウ

昔の大きな映写機が展示してあり、ガランとした国営映画製作所（ICAIC）、日本映画のポスターもある。隣は映画館。キューバの人はよく映画を見ると言うが、入場料はとても安い。

国営スーパーも見ましたが、肉は塊に切って売り、同じ種類のお菓子や瓶詰などが積んであります。余りにも種類が少ないので棚はガラガラ、倉庫のように暗いが、それでも客は多く物価はとても安い。

#### ■ 4 段階の医療機関～1000 人に 1 か所の家庭医



家庭医のミンディさん（左）と新藤通弘氏（右）

3 日目は総合診療所訪問。キューバの医療体制は地域の約 1000 人に対して家庭医が一つある。そして、総合診療所がある。訪問した総合診療所は 25000 人をカバーしているという。そして、そこでも手に負えないときには総合病院があり、それでも手に負えないときには専門病院があるという。私たちは家庭医と総合診療所を訪ねました。

訪問した家庭医は女医で、1 人と看護師 1 人で診療していました。とても朗らかで気さくなお母さん先生という感じで、自分のことをみんなは「ミンディー」と呼んでいると言っていました。待合室と問診室、奥に処置室があり、問診室には棚が壊れたと言って、カルテの入った引き出しが出されたまま使われていました。給料を聞かれて、少ないと正直に答え、それでも「お金で仕事をしているではありません。人類愛で仕事をしています」と笑顔で明るく答えていました。医師や国家公務員、大学の教授なども国からの月収はようやく 1500 ペソ（キューバペソ。1 ペソ＝約 4 円）になったという。これでは半月でなくなってしまうが、残りは配給で食べていく。配給は米と黒豆と 2 週間に一回の鶏肉です。

#### ■ 7.26 総合診療所～キューバ革命を始めた 7 月 26 日を名前に



7.26 総合診療所の中庭

この診療所は 4.5 km<sup>2</sup>の 27,000 人を対象にしています。この地域の 24 の家庭医と連携をとって、救急医療、検査、処置室などを備え医師も常駐しています。それでも間に合わないときは総合病院に行く。それでも必要なときには専門病院となり、全部で 4 段階になっています。

キューバの人たちは医療は無料だが薬はわずかな金額だが有料となっています。病院の中で使う薬は無料です。映画シッコでマイケルムーアがアメリカの消防士がキューバに来て治療しても無料と言っていたが、あれは 9.11 への支援と言うことで無料だったということでした。通常は外国人は有料になっています。

### 「天国でもないけど地獄でもない」明るくたくましく社会主義をめざす国・キューバ 3 (K)

2018-05-04 | 企画・行事



国営高齢者ホーム 朝食から夕方の軽食まで。大半が 80～90 才

#### 国営高齢者ホームで大歓迎

4 日目は、国営高齢者ホームの訪問。ホーム内の会場には、利用者が 100 人くらいが集まっていて、歌で歓迎してくれました。私たちも歌でお返しし、いくつかの質問をしました。ここはデイサービスのようなもので、1 人暮らしの人、家族と一緒にいる人などの高齢者が通ってきて、朝 8 時から午後 5 時ころまで朝食、体操、おやつ、昼食、TV、活動、おやつを食べ、ゲームや趣味のことをして過ごします。98 才の人もいて元気な様子でした。大体 80～90 才の人が来ています。若いころから歌を歌っていた女性がいて披露してくれましたが、とても張りのある声で年を感じさせませんでした。

ラテンアメリカ医学校 自分の国さえ貧しいのに  
貧しい国の人々のために学費も寄宿費も出す





ラテンアメリカ医学校



同医学校 実習を終えてバスで帰ってきた学生

ラテンアメリカ医学校を訪問。医師になるための勉強には7年間で870万円ほどかかるそうだが、発展途上国への医療支援と言うことで、勉強終了後には国に帰って貧しい人々の命を救うことを条件として、授業料など勉強に必要な教材などのほか、寄宿費、食事代、キューバに来るまでの旅費もすべてキューバ持ちにしているという。

その医科大学には今、アフリカからの学生が多く来ている。キューバにはスペイン征服時代にアフリカから黒人が連れてこられたが、今は、アフリカやラテンアメリカ、東南アジアの国々に支援をしている。アメリカからも来ていて、アメリカの「平和の牧師団」との約束で貧困地区の医師をめざす若者を受け入れ、アメリカに戻ったらスラム街の人々の命を救う医師になるという。

自分の国でさえ貧しいのに同じように貧しい国の人々のために自分たちのお金も教授も使うという。キューバでは余ったから人にやるのではなく「持っているものを分かち合う」という。

革命広場



革命広場 壁に描かれたゲバラの顔

5 日目はハバナ市内観光。まず、革命広場に行きました。いろいろな日にこの広場が人でいっぱいになるくらい 50 万人、100 万人と集まるそうです。正面に国家評議会や共産党本部があり、左側の内務省の壁にゲバラの顔、情報通信省にはカミーロ・シンフエゴスの顔が描かれています。ゲバラの肖像の右下には、“Hasta la victoria siempre” 「常に勝利に向かって」と書かれています。これを「永遠の勝利に向かって」と訳した人がいたそうですが、これは誤訳で「常に」が正解と新藤氏は強調していました。

それぞれが記念写真を撮って、移動してゲバラ居宅を見学。閑静な住宅に、いまでもキューバ国民の尊敬の的である、その清貧な生き方が表れているように見える。

カバーニャ要塞とモロ要塞 内部に革命の展示



カバーニャ要塞



カバーニャ要塞にあるゲバラの写真

カバーニャ要塞はゲバラが占領し、それによって革命が決定的になった所です。対岸にあるモロ要塞は、攻められにくい入り江に作られた要塞でイギリスの海賊などを退けている難攻不落の要塞でした。要塞からの海や旧市街の眺めは素晴らしく、この日も快晴で真っ青な空に青い海が広がる絶好の日和でした。

## 「天国でもないけど地獄でもない」明るくたくましく社会主義をめざす国・キューバ 4(K)

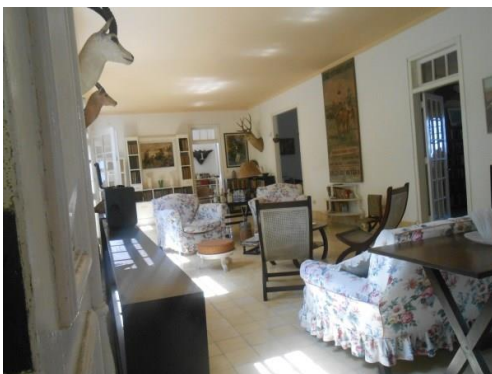
2018-05-04 | 企画・行事

### トロピカーナ キャバレーがクラシックバレエ水準のナイトシアターに 革命政府の柔軟な解決策

ナイトシアターのトロピカーナ。ここは革命前の 1939 年に開店したマフィアの経営するキャバレーで、売春が行われていたそうです。当時はハバナの若い女性の 7 人に 1 人が売春していたという。

そこで、革命政府はこれを閉鎖しようとしたところ、市民の反対が多く、また、踊り子たちの雇用もあり存続することにしました。しかし、退廃的なところをなくすために、ダンスをクラシックバレエの領域にまで高め、歌も著名な歌手も出演するようになりました。昔は仕事もなく、身を持ち崩して踊り子になったものが多かったそうですが、今は踊り子になるためにバレエを習っているといいます。キレのある踊りで華やかで、一見の価値があります。2000 人が収容できる屋外の会場で、毎日、満席になるくらいで予約が必要です。私たちは 15,000 円でしたがもっと高い席も多く、貴重な観光資源です。革命政府の柔軟さが社会主義をめざすキューバらしさのように思います。

### コヒーマル ヘミングウェイが愛したキューバの家



### 油田開発よりも環境優先

ヘミングウェイの家を出て、ヘミングウェイの愛したバーでカクテルも飲み、バラデロに向かう。途中、油田地帯があります。ここからの産出量はキューバの需要の 1 / 3 をカバーするという。さらに同じくらいの油田が発見されたが、環境を守ることを優先に現在は採掘していません。数日前の講義の中でキューバは環境的にも持続可能な社会をめざすと言っていましたがその実践と言うことになります。



日本ではアマミノクロウサギ裁判と言うのがありましたが結局、絶滅危惧種のアマミノクロウサギよりもゴルフ場開発が優先されてしまいました。

## 「天国でもないけど地獄でもない」明るくたくましく社会主義をめざす国・キューバ 5(K)

2018-05-04 | 企画・行事

バラデロ キューバの主要な産業、観光産業のリゾートを体験して



キューバ第2のリゾート バラデロ

バラデロはキューバ有数の観光地であり、リゾート地として国の経済に貢献しています。私たちが泊まったホテルはバンガロー式で6つくらいの部屋が平屋で1棟となっていて、部屋は広い。そうしたバンガローがいくつもあり、中庭にはプールや子ども用の広場もあります。海にも近く海から直接バンガローに入れるし、途中の道の所々にはシャワーもあります。エメラルドグリーン的大海と砂浜はまさに南の島のリゾートです。物不足で大変な暮らしをしている町の人々の暮らしは想像もつかないくらいです。

観光で稼ぎたくても元となる資金がキューバにはないので、贅沢なリゾートホテルはスペインとの合弁会社で作っているとのこと。大勢の観光客が来てお金を落としていくし、雇用の場にもなる。こんなに贅沢でキューバの人たちに申し訳ないと思いつつも、農業、製造業への財源となってキューバの人々が豊かになっていくならと思ひ、そして、近い将来、このリゾートもキューバの人たちが利用できればと思います。

しかし、こんな施設がなくてもキューバの人たちは、ずっと前から、この暖かいサンゴ礁の南の島で、魚を捕ったり、バナナをとったりして暮らしていました。元々、毎日がリゾートみたいなものかもしれない。食料主権、経済主権、独立と平和があり、食料、医療、教育、文化、スポーツが充実すれば、本当に住みやすい国にちがいません。

富豪デュボンの別荘 革命による富裕層の豪邸の接収の実態



デュポンの別荘からの眺望は海も絶景 ゴルフ場内にある

7日目、同じ半島の中間に位置するゴルフ場内にあるデュポンの別荘へ。デュポンは日本ではオイルライターのブランドで有名ですが、もともとは化学製品の製造販売の会社です。デュポンは1802年設立され、火薬から始まり、ナイロンなどの開発に成功し合成繊維分野にも進出した世界で第9位の企業となっています。そのデュポンの別荘はマホガニーを使った建物で、中の食堂は今は観光客のレストランとなり、キューバの演奏が行われています。別荘の裏手は海でエメラルドグリーンと白い砂浜で明るく、当日は快晴で思わずみんなが声をあげてしまいました。

この別荘の持ち主は革命のときにアメリカに帰ってしまい、革命政府とデュポン社は接収の交渉をしました。革命政府は簿価で、デュポン側は時価でと話が折り合わず、今も接収売買の交渉は進んでいないようです。しかし、持ち主は帰ってしまったので今はキューバ政府が管理し、観光のためにレストランなどを経営しています。

### 「誤りを隠してはいけない、誤りを認めて初めて改革ができる」 キューバの改革

いま、キューバは自立の経済を作りつつあります。長い植民地経済の下で、本国に奉仕する経済からどう国民的経済にする改革中で、キューバは来るたびに、どんどん良くなっている、と添乗員の方は言っていました。しかし、改革は試行錯誤です。アメリカの経済封鎖のせいにしては変えられない。自分たちの誤りを隠してはいけない、誤りを認めて初めて経済改革ができる、というのがキューバの政策で、ラウル・カストロの考え方でもあります。市場経済の拡大によって広がる格差を、どう再分配するのか。税と言う感覚がないこれまでの暮らしに、税負担と言う意識をどう定着させ、格差を縮小していくのか、課題は大きいのです。

### キューバは天国ではない。そうかといって地獄でもない

物不足だけれども、「キューバは天国ではない。そうかといって地獄でもない」とキューバの人たちは言っていると新藤氏は言う。そして、家庭医の医師が言ったように「人類に対する愛情で」明るく元気に、あるものをみんなで分かち合っ、踊りと音楽と南の島の青空とサンゴ礁という自然をバックグラウンドに、たくましく改革を進めています。

そして、私たちにできることは何かを考えます。キューバの独立を脅かすアメリカの干渉を絶対にやめさせる、そのために努力すること、また、キューバ経済発展のために日本からの投資や技術の支援を進めることでしょうか。

以上はキューバ視察のルポです。

この間に6つの現地講義も受けています。現地まで行って座学をする必要もない、日本で話を聞けば分かるのではないかとも思いました。しかし、現地の学者や国の大臣経験者が実際に現地のデータや文書を使っての話は、現実に行っていることです。その事実を見たというのは何よりも代えがたいことです。確かに現地で進行している出来事なのです。

ベネズエラで起きていることや、コスタリカ、ホンジュラス、グアテマラはアメリカの目下の同盟者で、それを使ってアメリカは中米を支配していこうとしているということも現地で聞かなければわからないことでした。

こうした内容を含む報告書は6月末を目安に完成を目指しています。講義記録も掲載しつつ、実際に共産党が政権を握って、社会主義を目指しているキューバが直面している困難にどう臨んでいるのか、率直に国民の前に誤りを認め、修正して改革を進めている様子も伝えていきたいと思えます。